

経営比較分析表

大阪府 岬町

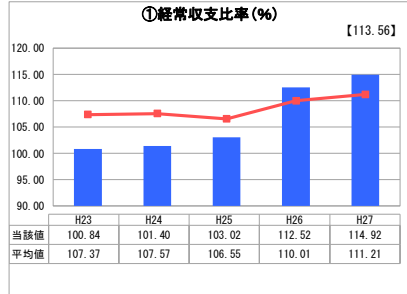
業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法適用	水道事業	末端給水事業	A6
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	49.99	100.00	3,740

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
16,488	49.18	335.26
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
16,383	18.40	890.38

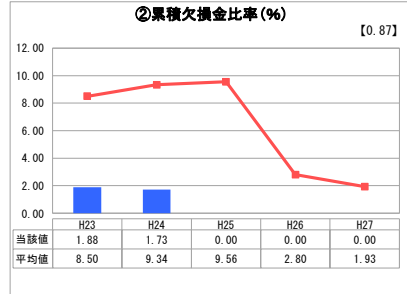
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- [] 平成27年度全国平均

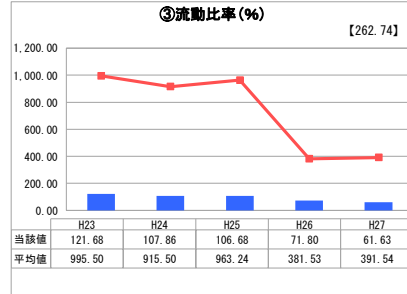
1. 経営の健全性・効率性



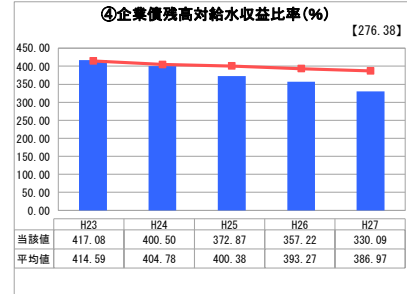
「経常損益」



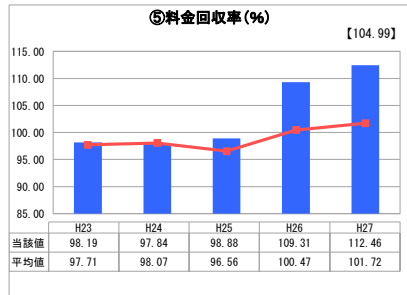
「累積欠損」



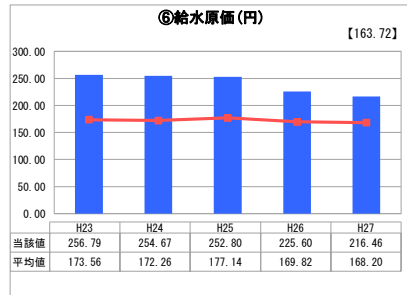
「支払能力」



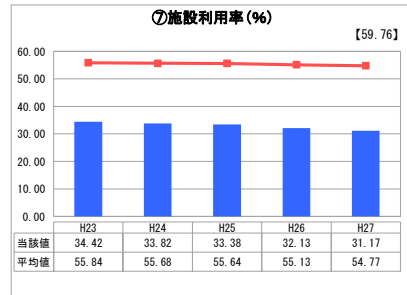
「債務残高」



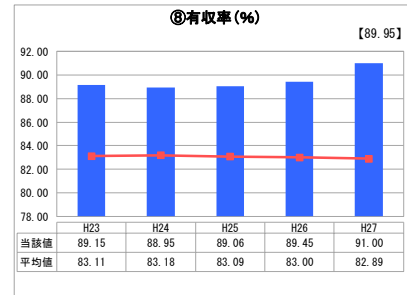
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

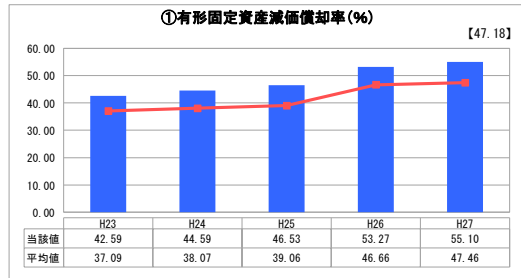


「施設の効率性」

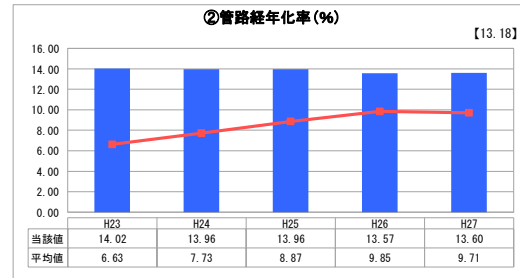


「供給した配水量の効率性」

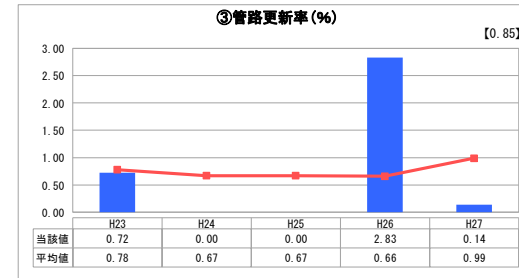
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

過去、水需要の高かった企業の撤退により、施設利用率が悪化し低い水準で推移しており、拡張事業の財源として発行した企業債の償還が経営を圧迫している。そのような中で、料金徴収率及び有収率向上については未収金の回収を含めた検討・徴収業務の外部委託や、漏水調査の実施により改善に努め、単年度における経常収支比率は、やや改善傾向にある。また、流動比率は100%を下回っており、短期的な債務に対する支払い能力を有していない状況となっている。

2. 老朽化の状況について

管路経年化率は類似団体と比較すると若干高く推移している。また、管路更新については下水道布設に併せて末端排水管路布設替えを行ったものであり、基幹管路に關しての老朽管対策事業は十分に実施できていない状況である。

全体総括

経常収支率は改善傾向にあるものの企業債残高が高く、流動比率が100%を下回っていることから、更なる経営改善が必要である。企業誘致により「大口」受給者の増加が見込む事が出来れば現状を改善するむことも考えられるが実現は期待できない状況である。また、達磨ダムからの取水及び浄水施設である孝子浄水場にも老朽化が進み更新事業が必要とされるが実施困難な状況である。今後の取組として大阪広域水道企業団との統合に向けて検討協議を含めた中で、経営戦略策定を進め、運営基盤の強化に努めていく必要がある。

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。